



子育てつうしん

令和7年2月10日
認定こども園ひばり保育園

境木 晴苗

まだまだ寒い日々が続いていますが、2月3日に立春を迎え、早咲きの梅が見られるようになりました。少しずつ、あたたかい春が近づいており、新学期の準備が忙しくなってくるのではないのでしょうか。

〈子どもの叱り方〉



子育てをしていると、ちょっとしたことで子どもを叱ってしまい、自己嫌悪に陥ってしまうことはありませんか？しかし、可愛いからなんでも許すことが愛情ではありません。子どもは自分がしてはいけないことをした時に、はっきり叱ってもらうことで、「この人は自分に向き合ってくれている。」と実感します。

叱れても同じことを繰り返す子どもを見て、「うまく伝わっていないのでは…」と悩む方もいるかも知れません。

今回は子どもを叱る時のポイントをいくつかご紹介します。

〈叱る時に気を付けたいこと〉



子どもを叱らなければいけない場面は、他人を傷つけた時や自分自身を傷つけた時、命の危険に関わるようなことをした時など様々です。その中で叱る時に保護者が気を付けたいことは、暴力を加えないこと、長々と叱らないこと、言うことをその時々で変えないこと、人格を否定する言葉は使わないこと、叱られることをした場面から時間を空けないことです。

叱った後は気持ちを切り替え、親子ともに感情を引きずらないことも大切です。また、その後の行動が改善された時は褒めることも大切です。

ひばり保育園では毎週月・水に園開放を行っています。

子育てなどについての相談がありましたらお気軽にご利用ください。



〈叱り方のポイント〉

3歳頃までは好奇心が強くなったり、イヤイヤ期があったりなど、叱られると大きな声で泣き続ける子どもも多いのではないのでしょうか。そのような時期は、場所を移動したり、背中をさすったりするなど、まずは、落ち着けるようにすることがポイントです。

公共の場で周りの目が気になる方もいらっしゃると思います。そのような場所へ行くときは「お店では走らない。」など、事前に約束をしておくことも有効です。

4歳頃からは身の回りのことがある程度、自分で出来るようになってきます。子ども同士での関わりが増え、トラブルになることもあるでしょう。そのような時期は望ましくない言動を叱るだけでなく、「どうしてダメなのか」という理由も伝えることがポイントです。

〈こんな時、どう叱る…？〉

乳幼児期に多く見られる行動を例に挙げ、その行動を減らすために有効な関わり方をご紹介します。

◎物を投げる子ども

→腕の力を発達させようとしている、2歳頃までに多く見られる行為です。代わりに物を投げる遊びを提供すると落ち着くことがあります。

◎叱っている時に話を聞いてくれない子ども

→叱る時はどうしても大人が主導になりがちです。その中で、どうして叱られるようなことをしたのかなど、子どもの気持ちを聞いてあげることで、大人の言葉を聞き入れるようになります。

◎お友達を傷つけた時

→他人にも感情があることを理解できるようになるのは、4歳頃と言われています。そのため、他人の気持ちを理解できるまでは、子どもの気持ちを受け止めつつ、相手の気持ちを代弁してあげることが大切です。

